

運輸部



操船室で操船の説明を受ける児童



救命ボート操作の見学

我が国は四面を海に囲まれ、物資輸送の多くを海上輸送に依存しており、我が国の国民生活及び経済活動にとって、安定的な海上輸送を確保することは重要なことです。この安定的な海上輸送を確保するに当たっては、海上輸送を担う人材の基盤となる船員の安定した確保育成が必要不可欠です。

沖縄若年内航船員確保推進協議会（事務局：沖縄総合事務局運輸部）では、久米商船株式会社の協力で、去る12月

Point

沖縄若年内航船員確保推進協議会（事務局：沖縄総合事務局運輸部）では、小学生高学年を対象に船員を含む海事産業への理解醸成を図る取組として「海事教室」を実施しました。

17日に那覇泊港に停泊する『フェリー琉球』船内において船員を含む海事産業に対する理解醸成を図ることを目的に、浦添市立沢城小学校6年生4クラス（参加児童123名）を対象に「海事教室」を実施しました。

本教室では、操船室において操船方法やレーダーの見方、機関室において船の推進に必要なエンジンの仕組み、船内においてバリアフリー設備を含めた船内設備等について、また、客室にお

いては船員になるための資格や船員の仕事等について学習しました。参加した児童は、船長等講師の説明に興味深く耳を傾け、積極的に質問をしていました。



機関室で説明を受ける児童



機関長へ質問をする児童



『フェリー琉球』

学習効果を検証するための理解度確認テストでは、多くの児童が一定の正答率に達し、自由意見では、「将来航海士として船に乗り、船の仕事をしたい。」、「船員一人一人に役割があることが分かった。」、「今回の海事教室で、船に興味をもつた。」等の意見があり、参加児童に対して船員を含む海事産業への理解醸成を図ることができたのではないかと感じました。

当協議会では、今後も海事思想の普及啓発活動を含めた若年船員の確保・育成に関する取組を推進します。

小学生を対象に「海事教室」を実施